

第 43 回腎癌研究会 スケジュール

会場：東京ステーションコンファレンス 5階 501

日時：平成24年7月22日(日) 8:30-16:35

8:30-8:35 開会挨拶

8:35-9:15 Session1「分子標的薬」

座長:岸田 健(神奈川がんセンター 泌尿器科) ※一般演題:0-1~5

9:15-9:55 Session2「手術」

座長:藤井 靖久(がん研有明病院 泌尿器科) ※一般演題:0-6~10

9:55-10:05 休憩

10:05-10:45 Session3「長期予後・透析腎癌」

座長:浅野 友彦(防衛医科大学校 泌尿器科) ※一般演題:0-11~15

10:45-11:25 Session4「予後規定因子・転移巣に対する治療」

座長:水谷 陽一(藍野大学 臨床工学科) ※一般演題:0-16~20

11:25-12:00 総会 / 休憩

12:00-13:30 Symposium 1「International Session」

座長:Nicholas J. Vogelzang

(Chair and Medical Director Developmental Therapeutics and Co-Chair GU Committee
US Oncology Research Comprehensive Cancer Centers)

内藤誠二(九州大学 泌尿器科)

13:30-14:30 Poster Session / 休憩

Poster Session1「疫学・診断」座長:三上 修治(慶應義塾大学 病理診断部) ※一般演題:P-1~4

Poster Session2「分子標的薬 (TKI)」座長:齋藤 一隆(東京医科歯科大学 泌尿器科) ※一般演題:P-5~8

Poster Session3「分子標的薬 (mTOR)」座長:和田 孝浩(熊本大学 泌尿器科) ※一般演題:P-9~12

Poster Session4「非淡明癌・副作用」座長:中村 英二郎(京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター 悪性制御研究ラボ)
※一般演題:P-13~17

Poster Session5「手術」座長:立神 勝則(九州大学 泌尿器科) ※一般演題:P-18~22

14:30-15:30 Symposium 2「分子標的薬治療における予後因子」

座長:木村 剛(日本医科大学 泌尿器科)

15:30-16:30 Symposium 3「分子標的薬治療のadverse eventsとその対策」

座長:金山 博臣(徳島大学 泌尿器科)

16:30-16:35 閉会挨拶

※Symposium 1~3 共催

プラチナスポンサー：ノバルティス ファーマ株式会社、ファイザー株式会社

ゴールドスポンサー：大日本住友製薬株式会社

シルバースポンサー：バイエル薬品株式会社、塩野義製薬株式会社

第 43 回腎癌研究会 プログラム

Symposium1 「International Session」

12:00-13:30

座長1: Nicholas J. Vogelzang (Chair and Medical Director Developmental Therapeutics and Co-Chair
GU Committee US Oncology Research Comprehensive Cancer Centers)
座長2: 内藤 誠二 (九州大学 泌尿器科)

【基調講演】 Update on Pharmacotherapy of Renal Cell Carcinoma

Nicholas J. Vogelzang
(Chair and Medical Director Developmental Therapeutics and Co-Chair
GU Committee US Oncology Research Comprehensive Cancer Centers)

- S1-1 Prognostic factors and treatment outcome in mRCC with targeted therapy : Experiences from NCC, Korea Jin Soo Chung (National Cancer Center, Korea)
S1-2 Unique Risk classification and treatment outcome for mRCC in Japan 富田 善彦 (山形大学 泌尿器科)
S1-3 Laparoscopic partial nephrectomy: Lessons learned from multi-institutional outcome study in Japan 斎藤 英郎 (東北大学 泌尿器科)
S1-4 Robot-assisted partial nephrectomy Koon Ho Rha (Yonsei University Seoul, Korea)

Symposium2 「分子標的薬治療における予後因子」

14:30-15:30

座長: 木村 剛 (日本医科大学 泌尿器科)

- S2-1 血清ナトリウム値は転移性腎細胞癌における分子標的治療の予後を予測する重要な因子となる 植村 元秀 (大阪大学 泌尿器科)
S2-2 スニチニブ治療における有害事象の予後予測因子としての検討 藤田 哲夫 (北里大学 泌尿器科)
S2-3 転移性腎細胞癌に対する分子標的治療の予後予測 亭島 淳 (広島大学 泌尿器科)
S2-4 当科における進行腎細胞癌に対するチロシンキナーゼ阻害剤の使用成績 三宅 秀明 (神戸大学 泌尿器科)
S2-5 C反応性蛋白(CRP)はスニチニブにより治療された転移を有する腎細胞癌の予後予測因子である 齋藤 一隆 (東京医科歯科大学 泌尿器科)

Symposium3 「分子標的薬治療のadverse eventsとその対策」

15:30-16:30

座長: 金山 博臣 (徳島大学 泌尿器科)

- S3-1 ソラフェニブ投与による手足皮膚反応 (Hand-Foot Skin Reaction) = 我々はどう対処すべきか? = 篠原 信雄 (北海道大学 泌尿器科)
S3-2 分子標的薬治療中の脳性ナトリウム利尿剤投与による循環器有害事象対策 植田 健 (千葉県がんセンター 泌尿器科)
S3-3 腎癌の転移病変に対するmTOR阻害剤投与症例における、血清KL6値のモニタリングによる臨床的検討 若松 太郎 (東京女子医科大学 泌尿器科)
S3-4 治療を1年以上継続できた分子標的薬の合併症 山口 健哉 (日本大学 泌尿器科)
S3-5 チーム"YURCC"による分子標的薬の有害事象対策 加藤 智幸 (山形大学 泌尿器科)

Session1 「分子標的薬」

8:35-9:55

座長: 岸田 健 (神奈川がんセンター 泌尿器科)

- O-1 名古屋大学における術前分子標的剤投与を施行した腎細胞癌症例の検討 佐々 直人 (名古屋大学 泌尿器科)
O-2 進行性腎癌poor riskに対する分子標的治療薬の成績 加藤 康平 (岩手医科大学 泌尿器科)
O-3 ソラフェニブ早期中止群と長期投与群の比較検討 深沢 賢 (千葉県がんセンター 泌尿器科)
O-4 転移性腎癌に対する逐次療法 宋 裕賢 (九州大学 泌尿器科)
O-5 広島市立安佐市民病院における転移性腎細胞癌に対する分子標的薬Sequential投与 小島 浩平 (広島市立安佐市民病院 泌尿器科)

Session2 「手術」

9:15-9:55

座長: 藤井 靖久 (がん研有明病院 泌尿器科)

- O-6 単腎に発生した小径腎癌に対する腎部分切除術と凍結手術の腎機能に及ぼす影響 波多野 孝史 (東京慈恵会医科大学附属病院 泌尿器科)
O-7 R.E.A.N.A.L. nephrectomy scoreを用いた当院での腎部分切除術の臨床的検討 大前 憲史 (東京女子医科大学 泌尿器科)
O-8 腹腔鏡下腎部分切除術の経験と最近の手法 本郷 文弥 (京都府立医科大学 泌尿器科)
O-9 腎部分切除後に局所再発した単腎症例に対して再度腎部分切除を行った7症例の検討 吉田 一彦 (東京女子医科大学 泌尿器科)
O-10 7cmを超える腎がんに対する腹腔鏡下腎摘除術の成績 藤田 高史 (名古屋大学 泌尿器科)

Session3 「長期予後・透析腎癌」

10:05-10:45

座長: 浅野 友彦 (防衛医科大学校 泌尿器科)

- O-11 腎細胞癌に対する根治的腎摘除術及び腎部分切除術後における全生存率及び心血管系疾患発生に関する比較検討 神原 太樹 (津山中央病院 泌尿器科)
O-12 限局性腎腫瘍に対する根治的腎摘除術後の腎機能と全生存率に関する検討 西嶋 淳 (山口大学 泌尿器科)
O-13 腎細胞癌における腎摘除後の慢性腎臓病(CKD)進行を予測する因子の検討 瀬島 健裕 (鳥取大学 泌尿器科)
O-14 透析腎癌の予後は本当に良好か? -ステージ対ステージ分析による予後比較- 飯塚 淳平 (東京女子医科大学 泌尿器科)
O-15 エベロリムスによる貧血と鉄代謝の検討 陶山 浩一 (虎の門病院 臨床腫瘍科)

Session4 「予後規定因子・転移巣に対する治療」

10:45-11:25

座長:水谷 陽一 (藍野大学 臨床工学科)

- O-16 腎癌取り扱い規約第4版を用いた腎癌手術症例の臨床病理学的検討 宮地 禎幸 (川崎医科大学 泌尿器科)
- O-17 下大静脈血栓を伴う腎細胞癌における組織型の予後への影響 —乳頭状腎癌例はきわめて予後不良である— 近藤 恒徳 (東京女子医科大学 泌尿器科)
- O-18 根治的腎摘除術を施行した静脈内腫瘍血栓を伴う腎細胞癌症例の予後規定因子としての腫瘍血栓進展レベルの意義 三宅 秀明 (神戸大学 泌尿器科)
- O-19 腎癌骨転移症例におけるゾレドロン酸の有効性 安田 庸輔 (がん研有明病院 泌尿器科)
- O-20 腎癌脳転移に対するガンマナイフ前後のスニチニブやソラフェニブの一時的投与中止は必要か? 周藤 高 (横浜労災病院 脳神経外科)

Poster Session1「疫学・診断」

13:35-14:03

座長:三上 修治 (慶應義塾大学 病理診断部)

- P-1 時代変遷による腎癌患者の特徴の変化 早川 希 (東京女子医科大学 泌尿器科)
- P-2 愛知県がんセンター中央病院にて外科的治療が施行された腎腫瘍における腫瘍径別良性腫瘍の頻度 曾我 倫久人 (愛知県がんセンター中央病院 泌尿器科)
- P-3 腎癌における術前造影CTでの組織診断の検討 山下 かおり (東京女子医科大学東医療センター 泌尿器科)
- P-4 T3a腎細胞癌症例における腎静脈腫瘍血栓例と腎周囲脂肪組織浸潤例の比較検討 永田 政義 (東京大学 泌尿器科)

Poster Session2「分子標的薬 (TKI)」

13:35-14:03

座長:齋藤 一隆 (東京医科歯科大学 泌尿器科)

- P-5 九州大学病院における転移性腎細胞癌に対する治療 大坪 智志 (九州大学 泌尿器科)
- P-6 熊本県における進行性腎細胞癌に対するsunitinib使用の現況 前田 喜寛 (熊本大学 泌尿器科)
- P-7 遠隔転移を伴わない腎癌に対するスニチニブを用いた術前投与の経験 長沼 英和 (佐賀県立病院好生館 泌尿器科)
- P-8 分子標的薬再投与を行った転移性腎細胞癌の2例 安住 誠 (北海道がんセンター 泌尿器科)

Poster Session3「分子標的薬 (mTOR)」

13:35-14:03

座長:和田 孝浩 (熊本大学 泌尿器科)

- P-9 治療経過中ソラフェニブとテムシロリムスを併用投与した進行性腎細胞癌の1例 杉山 貴之 (浜松医科大学 泌尿器科)
- P-10 エベロリムスを投与した進行性/転移性腎腫瘍患者の臨床的検討 高橋 正幸 (徳島大学 泌尿器科)
- P-11 テムシロリムスを4年間投与した進行性腎細胞癌の1例 高山 達也 (浜松医科大学 泌尿器科)
- P-12 Performance Status(PS)4の進行性腎細胞癌患者にテムシロリムスを投与した2例 林田 有史 (香川大学 泌尿器科)

Poster Session4「非浸明癌・副作用」

13:35-14:10

座長:中村 英二郎 (京都大学医学研究科メディカルイノベーションセンター 悪性制御研究ラボ)

- P-13 Xp11.2 translocation renal cell carcinomaの臨床病理学的検討 廣部 恵美 (札幌医科大学 泌尿器科)
- P-14 透析腎癌の臨床的検討 新地 祐介 (防衛医科大学校 泌尿器科)
- P-15 分子標的治療時代における当施設の非浸明細胞腎癌に対する治療経験 全並 賢二 (愛知医科大学 泌尿器科)
- P-16 ペリニ管癌にm-TOR阻害薬が有効であった1例 山口 雷蔵 (帝京大学 泌尿器科)
- P-17 Temsirolimus投与中に穿孔性虫垂炎を発症した転移性腎癌の1例 矢澤 聡 (慶應義塾大学 泌尿器科)

Poster Session5「手術」

13:35-14:10

座長:立神 勝則 (九州大学 泌尿器科)

- P-18 小径腎癌に対する腎部分切除術の検討 津島 知靖 (岡山医療センター 泌尿器科)
- P-19 腹腔鏡下腎部分切除術の検討 新たな施設での導入経験 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 泌尿器科)
- P-20 腹腔鏡下腎部分切除術におけるV-LocTM180を用いた無結紮連続縫合の経験 小島 浩平 (広島市立安佐市民病院 泌尿器科)
- P-21 腎摘除を施行したT3腎癌の臨床的検討 中島 信幸 (東海大学 泌尿器科)
- P-22 転移性腎癌に対するcytoreductive nephrectomyの臨床的検討 山崎 俊成 (京都大学 泌尿器科)